

2019 年度第 2 回情報教育研究委員会データサイエンス分科会議事概要

I. 日 時：令和元年 11 月 11 日（月）18:00～20:00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：渡辺主査、今泉委員、大原委員、西川委員、後藤委員
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. データサイエンス教育に関連する動向について

- ・ 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの取組みについて、文科省では私立大学を意識して見直しをかける検討をしている。現状では、私立大学文系向けのデータサイエンス事例・紹介の取組みがない。また、AI 教育の認定制度の枠組みを検討していることが報告された。
- ・ コンソーシアム全国展開協力校について、特定地域・分野の追加公募が開始される予定がある。
- ・ データサイエンス教育には、企業の連携が求められることが確認された。

2. 各大学の関連事例収集について

- ・ 慶應義塾大学での講義のインターネット配信では、1，2 年生対象のビデオが一般公開されている。理工学部では、データサイエンス特別講義やデータ解析演習など豊富なデータサイエンス関連科目が設置されている。また、学生主体の教育として、データフェスタ、AI・高度プログラミングコンソーシアムなどの取組みがある。経済学部、FinTEK センターでも専門領域との融合として取組まれている。
- ・ データサイエンスセンター取組みページのある大学が紹介された。立教大学では、統計関連セミナー、統計・社会調査系科目の提供、統計学習コンテンツ・ソフトウェア開発、既存データの活用支援などが掲載されている。成城大学では、データサイエンスとは何か、どこで役に立つのか、授業科目の紹介などが掲載されている。東京理科大学では、データサイエンティスト育成プログラムの概要などが掲載されている。
- ・ MOOC 関連では、edX（Data Science で検索）、Coursera（Statistics and Data Analysis 関連）、UDACITY（Data Analyst）に掲載の一部が紹介された。
- ・ コンテストでは、Kaggle 社のデータ分析オンラインコンペティションが紹介された。
- ・ その他、総務省のデータサイエンス・オンライン講座や Udemy（オンライン動画学習サービス）が紹介された。
- ・ 武蔵野大学では、初級レベルのメディア・デザイン演習、専門分野との組み合わせの金融工学などの科目がある。また、データサイエンス学部としては、データサイエンスへの理解促進を図るデータサイエンス学や、コンテストを活用したプロジェクトなどの科目が紹介された。
- ・ 中央大学（理工）、実践女子大学（社会）、青山学院大学（経営）での関連科目を調査した概要が報告された。
- ・ 早稲田大学での教育の現状が紹介された。データ科学総合研究教育センターでは、データ科学（データサイエンス）における先進的モデルの拠点として、調査、推進、深化、人材育成など事業内容にあげ、D-DATa プログラム（高度データ関連人材育成）やスマートエスイー事業（社会人学び直し事業）のプログラムを進行しており、産学連携シンポジウムも開催している。また、創造理工学部経営システム工学科では、1～3 年（必須・選択）での統計化学やデータサイエンスに関連する演習を含めた 15 の科目が設置されている。また、全学共通教育の中で、オンライン教材を利用し、2014 年度から統計、2018 年度からデータ科学としてオンデマンド科目（テキスト、動画、練習問題をモジュール化）での自主学習のためのデータサイエンス教育の取組みを開始していることが紹介された。
- ・ その他に、スーパーサイエンスハイスクール全国大会受賞校の内容を紹介してはどうかの意見があった。
- ・ データサイエンス教育に各大学が取組んでいる中で、データクレンジングに関する教育が不足しているとの指摘があった。
- ・ 大社接続によるデータサイエンス教育の取組みとガイドラインの研究の部分では、関西学院大学の取組みを基本に検討してはどうか。
- ・ 企業との接続の条件として、承諾書など企業との約束ごとや支援範囲・方法等をどのように進めているのか確認・整理が必要ではないか。

VI. 今後のスケジュール

次回の分科会は、12 月 19 日に開催することにし、具体的な情報提供内容を持ち寄り、データサイエンス教育に関する情報提供のプラットフォームの完成を目指すことにしている。